

千葉県袖ヶ浦市

中六遺跡（22）

―蔵波地区宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書―

2019

スエヒロ建設株式会社

袖ヶ浦市教育委員会

千葉県袖ヶ浦市

ちゅうろ
中六遺跡 (22)

—蔵波地区宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2019

スエヒロ建設株式会社

袖ヶ浦市教育委員会

序 文

袖ヶ浦市は、千葉県中央部の東京湾岸沿いに位置します。小櫃川によってもたらされた肥沃な土地と、東京湾をはじめとした豊かな自然環境に恵まれ、古より多くの人が生活を営んだ痕跡である埋蔵文化財が市内には数多く残っています。

今回、宅地造成に伴い、袖ヶ浦市蔵波に所在する中六遺跡の発掘調査を実施しました。本遺跡はこれまでに20回を超える調査が行われ、旧石器時代から中・近世に至るまで、様々な時代の人々が生活した痕跡が見つっています。今回の発掘調査においても古墳時代の集落跡が発見されました。現在、蔵波地区は宅地造成が進められ、市内でも有数の住宅街となっております。悠久の時間が流れても、土地の利用方法は今も昔も変わらないのかもしれません。

発掘調査の成果を取りまとめた本書が、学術・教育資料として、さらには埋蔵文化財保護の重要性を理解していただく資料として、多くの方々に広く活用いただき、郷土の歴史への興味・関心を持つことのきっかけとなれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施から本書の刊行に至るまで、ご指導・ご協力をいただきましたスエヒロ建設株式会社、千葉県教育庁教育振興部文化財課をはじめ、関係者の皆様に対しまして心から感謝申し上げます。

平成31年3月

袖ヶ浦市教育委員会
教育長 御園 朋夫

例 言

1. 本書は、千葉県袖ヶ浦市蔵波字中六 1,259 番地 51 の一部他に所在する中六遺跡（遺跡コード：S G 013）第 22 次調査の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、スエヒロ建設株式会社による蔵波地区宅地造成事業に伴って行われ、千葉県教育委員会の指導のもと、袖ヶ浦市教育委員会が実施した。なお、整理作業は県費補助事業（不特定遺跡発掘調査助成事業）として実施した。
3. 調査面積及び発掘・整理作業期間、担当者は下記のとおりである。
調査面積：360 m²
発掘作業
期 間：平成 28 年 5 月 23 日～同年 6 月 30 日
整理作業
期 間：平成 29 年 11 月 10 日～平成 31 年 3 月 13 日
担 当 者：大河原務
4. 本書の執筆は大河原務が担当した。
5. 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
第 1 図 国土地理院発行 1/25,000 地形図 「奈良輪」「姉崎」「木更津」「上総横田」
第 2 図 袖ヶ浦市発行 1/2,500 地形図 「No. 13」「No. 14」「No. 18」「No. 19」
6. 遺構番号は、過去の調査における遺構番号に引き続き付与した。
7. 今回の調査に伴う遺物・記録類等は、袖ヶ浦市教育委員会で保管する予定である。

凡 例

1. 基準点測量は世界測地系を用いた。方位は座標北である。
2. 図の縮尺は、遺構・遺物ともに各図に明記した。
3. 遺構図中のドットは遺物の出土位置を示した。
4. 遺構の「S I」は竪穴住居、「SK」は土坑、「P」はピット、遺構図中の「K」は攪乱を表す。
5. 本遺跡の調査は、数次にわたり実施されているため、括弧付けの数字で調査次数を示した。
第 22 次調査 → (22)

目次

序文

例言・凡例

I 序章	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査組織	1
3. 遺跡の立地と周辺の環境	3
4. 調査及び整理作業の方法	3
5. 調査の沿革	4
II 検出された遺構と遺物	7
1. 調査の概要	7
2. 竪穴住居	7
3. 溝状遺構	8
4. 土坑	8
III 総括	18

挿図目次

第1図 遺跡位置図及び周辺遺跡分布図	第2図 調査区位置図
第3図 調査区全体図	第4図 S I 061 平面図①・土層断面図
第5図 S I 061 平面図②・遺物出土状況図	第6図 S I 061 出土遺物実測図
第7図 S I 062 平面図①・土層断面図	第8図 S I 062 平面図②・遺物出土状況図
第9図 S I 062 出土遺物実測図	第10図 S I 063 平面図・土層断面図
第11図 S D 003・004 平面図・土層断面図・ 出土遺物実測図	第12図 S K 152 平面図・土層断面図

表目次

第1表 出土遺物観察表

図版目次

図版1 調査区全景・検出遺構①	図版2 検出遺構②
図版3 検出遺構③	図版4 検出遺構④
図版5 出土遺物①	図版6 出土遺物②

I 序章

1. 調査に至る経緯

平成 28 年 3 月 14 日付けで、袖ヶ浦市蔵波字中六 1,259 番地 51 の一部他における埋蔵文化財の有無及びその取扱いについての問い合わせがあり、平成 28 年 3 月 16 日付け袖教生第 3517 号にて、問い合わせ地は周知の埋蔵文化財包蔵地である中六遺跡内にあたる旨を回答した。

その後、問い合わせ者と協議を行った結果、記録保存を講ずるとの結論に達し、対象面積 921.36 m²のうち 123 m²を対象とした確認調査を平成 28 年 4 月 11 日から 4 月 19 日に実施し、確認調査の結果を平成 28 年 4 月 25 日付け袖教生第 247 号にて通知した。確認調査の結果を受け、問い合わせ者と再協議した結果、確認調査範囲のうち遺構の展開が予想される 360 m²の本調査を実施することとなった。

発掘・整理作業は袖ヶ浦市教育委員会が行った。

2. 調査組織

調査主体 袖ヶ浦市教育委員会

平成 28 年（発掘作業）

教 育 長	川島 悟	教育部長	井口 崇
教育部次長	森田 泰弘	教育部参事兼生涯学習課長	原田 光雄
生涯学習課文化振興班			
副課長兼文化振興班長	西原 崇浩	主 査	田中 大介
副 主 査	前田 雅之	主任主事	大河原 務（担当）

平成 29 年（整理作業）

教 育 長	御園 朋夫	教育部長	石井 俊一
教育部次長	高橋 広幸	教育部参事兼生涯学習課長	小阪 潤一郎
生涯学習課文化振興班			
副課長兼文化振興班長	稲葉 理恵	主 査	田中 大介
副 主 査	簗島 正広	副 主 査	大河原 務（担当）
学 芸 員	鎌田 望里		

平成 30 年（整理作業）

教 育 長	御園 朋夫	教育部長	石井 俊一
教育部次長	末吉 幸夫	教育部参事兼生涯学習課長	小阪 潤一郎
生涯学習課文化振興班			
副課長兼文化振興班長	稲葉 理恵	主 査	田中 大介
副 主 査	簗島 正広	副 主 査	大河原 務（担当）
学 芸 員	鎌田 望里		



第1図 遺跡位置図及び周辺遺跡分布図（1：25,000）

3. 遺跡の立地と周辺の環境

本遺跡が所在する袖ヶ浦市の地形は、北部に広がる台地と小櫃川の流れを受け発達した南部の沖積低地と大きく分けられる。北部の台地は下総台地の南端に位置し、北を養老川、南を小櫃川の開析により分断された袖ヶ浦市域の台地は袖ヶ浦台地と呼ばれる。袖ヶ浦台地は、笠上川、浜宿川、久保田川、蔵波川、境川などの小河川の浸食により樹枝状の開析谷が複雑に入り組んでいる。

本遺跡は袖ヶ浦台地のほぼ中央部に位置し、蔵波川を遺跡北部の眼下に望む標高約 40 ～ 45 m の台地平坦部に展開する。本遺跡が立地する袖ヶ浦台地には数多くの遺跡が密に分布しており、本遺跡周辺も旧石器時代から奈良・平安時代にかけての各時代の遺跡が数多くみられる。本項では、本調査において検出された古墳時代前期の周辺遺跡について概観する。

古墳時代前期の集落遺跡では、上大城遺跡、美生遺跡群、山王辺田遺跡、台山遺跡等が挙げられる。上大城遺跡は本遺跡の北東約 2 km に位置し、竪穴住居 108 軒、方形周溝墓 7 基が検出されており、出土遺物には東海系や畿内系などの外来系要素を含む資料が見られる。美生遺跡群は本遺跡の北東約 1 km の蔵波川を挟んだ対岸に位置し、竪穴住居 119 軒が検出されている。山王辺田遺跡、台山遺跡は本遺跡の南東約 2 km に位置し、両遺跡とも 50 基を超える竪穴住居が検出されている。特に台山遺跡は狭小な調査範囲内において 112 軒の竪穴住居が検出され、重複が顕著に認められる。同時期の古墳では、神田古墳群、山王辺田古墳等が挙げられる。両古墳群とも古墳出現期の古墳と推測される前方後方墳が含まれており、特に神田古墳群は本遺跡の北約 0.5 km の蔵波川を挟んだ対岸に立地する。また、本遺跡範囲内においても前期及び後期のものと推測される大谷古墳群の円墳 5 基が所在する。

4. 調査及び整理作業の方法

本調査は、世界測地 IX 系に基づく基準点測量による方眼杭を使用し調査を実施した。調査にあたっては、中六遺跡 (11) (12) 時に設定したグリッドを踏襲し、調査範囲を包括する 20 m 四方の大グリッドを設定した。さらに大グリッドを 2 m 四方のグリッドで 100 分割したものを小グリッドとし、北西隅から 00、01、02…、北東隅を 09、南西隅を 90、南東隅を 99 と呼称した。本調査区は大グリッド R 17・18、S 17・18 に位置し、調査区北西隅のグリッドの起点 (R 17-00 の北西隅) は、X = -62,720、Y = 15,680 にあたる。

表土掘削はバックホウで行い、ソフトローム漸移層からソフトローム層上層までは人力で掘削した。遺構確認面はソフトローム層上層とした。遺構の図面は 20 分の 1 縮尺を基本とし、平面図は平板測量で作成した。遺物の取り上げに関しても基本的には同じ縮尺で図化し、必要に応じて微細図を作成した。

遺構名称は過去の調査で使用された遺構番号を引き継ぎ、3 桁の番号を使用した。

出土位置を記録した遺物は、遺構ごとに 4 桁の数字を付与して取り上げた。一括遺物については、遺構ごとに 1 番から連続した番号を付与して取り上げた。

写真撮影は中型カメラをメインカメラとし、フィルムは 6 × 7 判を使用した。35mm 小型カメラはサブカメラとし、フィルムは白黒とカラーリバーサルを使用した。また、デジタルカメラも補助的に使用した。

本書に掲載した実測図等は、アドビ社製イラストレーター及びフォトショップを使用し、デジタル化した。発掘作業時の写真は、主に 6 × 7 判及び 35mm 判リバーサルフィルムをスキャンして使用し、一部デジタルカメラで撮影した写真を使用した。遺物写真はデジタルカメラで撮影したものを使用した。編集はアドビ社製インデザインを使用した。

5. 調査の沿革

第1次調査（調査年：昭和61年、調査主体：財団法人君津郡市文化財センター）（本調査）

主な検出遺構：縄文時代陥穴4基、時期不明道路状遺構2条・溝状遺構2条

第2次調査（調査年：昭和62年、調査主体：財団法人君津郡市文化財センター）（本調査）

主な検出遺構：古墳時代竪穴住居2軒、時期不明道路状遺構1条

第3次調査（調査年：昭和63年、調査主体：財団法人君津郡市文化財センター）（本調査）

主な検出遺構：古墳時代竪穴住居1軒

第4次調査（調査年：平成元年、調査主体：財団法人君津郡市文化財センター）（本調査）

主な検出遺構：縄文時代炉穴14基・土坑26基、古墳時代竪穴住居1軒、時期不明道路状遺構5条

第5次調査（調査年：平成3年、調査主体：財団法人君津郡市文化財センター）（本調査）

主な検出遺構：縄文時代土坑16基、古墳時代竪穴住居5軒、時期不明道路状遺構3条

第6次調査（調査年：平成8・9年、調査主体：財団法人千葉県文化財センター）（本調査）

主な検出遺構：縄文時代土坑2基、弥生～古墳時代方形周溝墓1基、時期不明土坑4基・溝状遺構4条

第7次調査（調査年：平成11年、調査主体：袖ヶ浦市教育委員会）（確認調査）

主な検出遺構：縄文時代炉穴4基、弥生～古墳時代方形周溝墓1基、時期不明土坑16基・道路状遺構1条

第8次調査（調査年：平成17年、調査主体：袖ヶ浦市教育委員会）（確認調査）

主な検出遺構：縄文時代土坑1基、古墳時代円形周溝状遺構1基、時期不明道路状遺構1条

第9次調査（調査年：平成18年、調査主体：袖ヶ浦市教育委員会）（確認調査）

主な検出遺構：時期不明土坑7基

第10次調査（調査年：平成19年、調査主体：袖ヶ浦市教育委員会）（本調査）

主な検出遺構：縄文時代陥穴1基、古墳時代竪穴住居1軒、平安時代火葬墓2基、時期不明土坑10基

第11次調査（調査年：平成20年、調査主体：袖ヶ浦市教育委員会）（確認調査）

第12次調査（調査年：平成20・21年、調査主体：袖ヶ浦市教育委員会）（本調査）

主な検出遺構：縄文時代炉穴237基・陥穴6基・土坑21基、古墳時代竪穴住居26軒・竪穴状遺構1基・方墳2基・円墳1基・土坑1基・土坑墓2基

第13次調査（調査年：平成23年、調査主体：袖ヶ浦市教育委員会）（確認調査）

第14次調査（調査年：平成23年、調査主体：袖ヶ浦市教育委員会）（本調査）

主な検出遺構：古墳時代竪穴住居3軒、時期不明道路状遺構2条

第15次調査（調査年：平成24年、調査主体：袖ヶ浦市教育委員会）（確認調査）

第16次調査（調査年：平成24年、調査主体：有限会社勾玉工房 Mogi）（本調査）

主な検出遺構：縄文時代炉穴7基・陥穴5基・土坑27基、古墳時代竪穴住居7軒、時期不明掘立柱建物1棟

第17次調査（調査年：平成24年、調査主体：袖ヶ浦市教育委員会）（確認調査）

第18次調査（調査年：平成25年、調査主体：株式会社地域文化財研究所）（本調査）

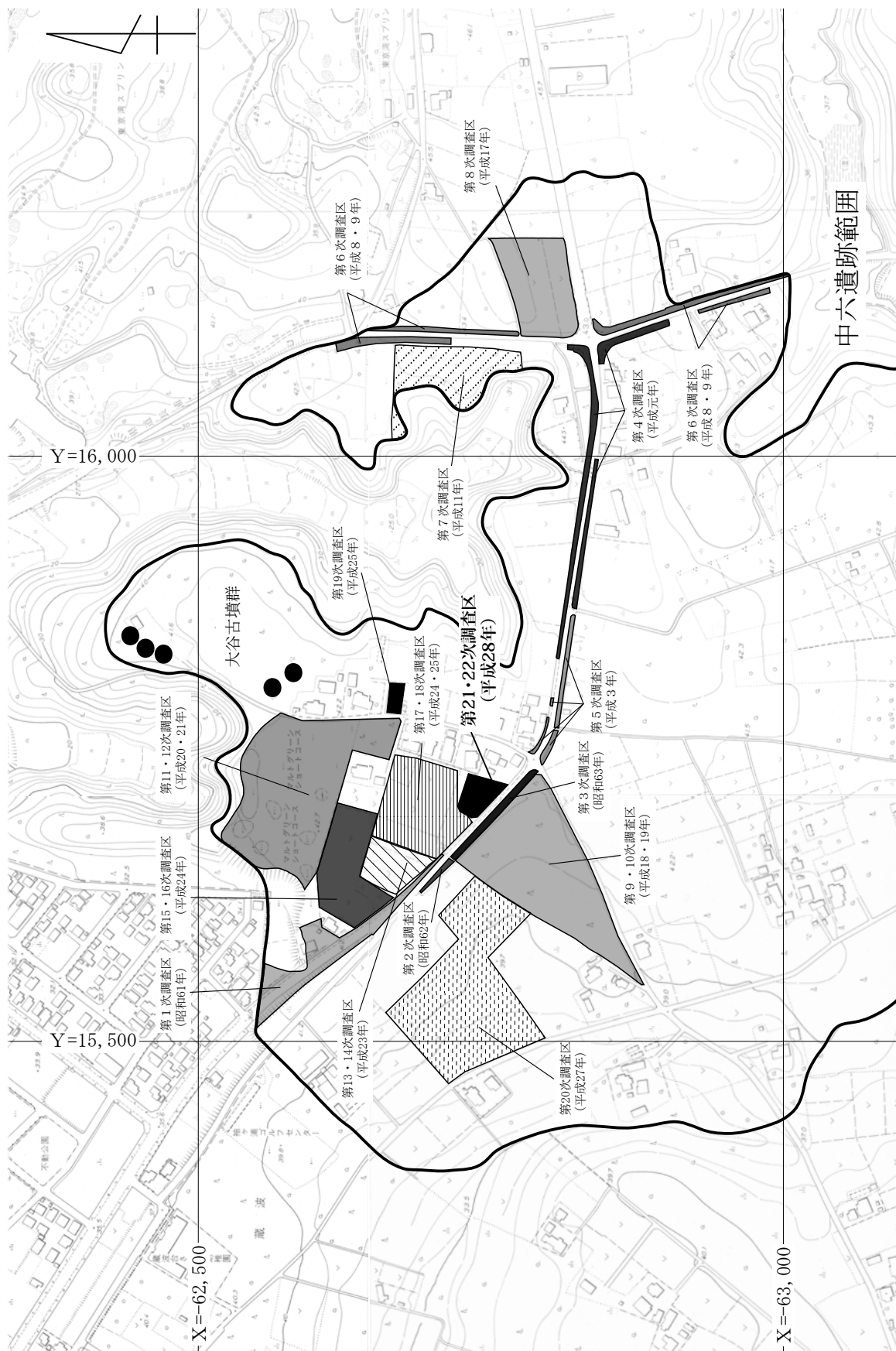
主な検出遺構：縄文時代陥穴1基、古墳時代竪穴住居14軒

第19次調査（調査年：平成25年、調査主体：袖ヶ浦市教育委員会）（本調査）

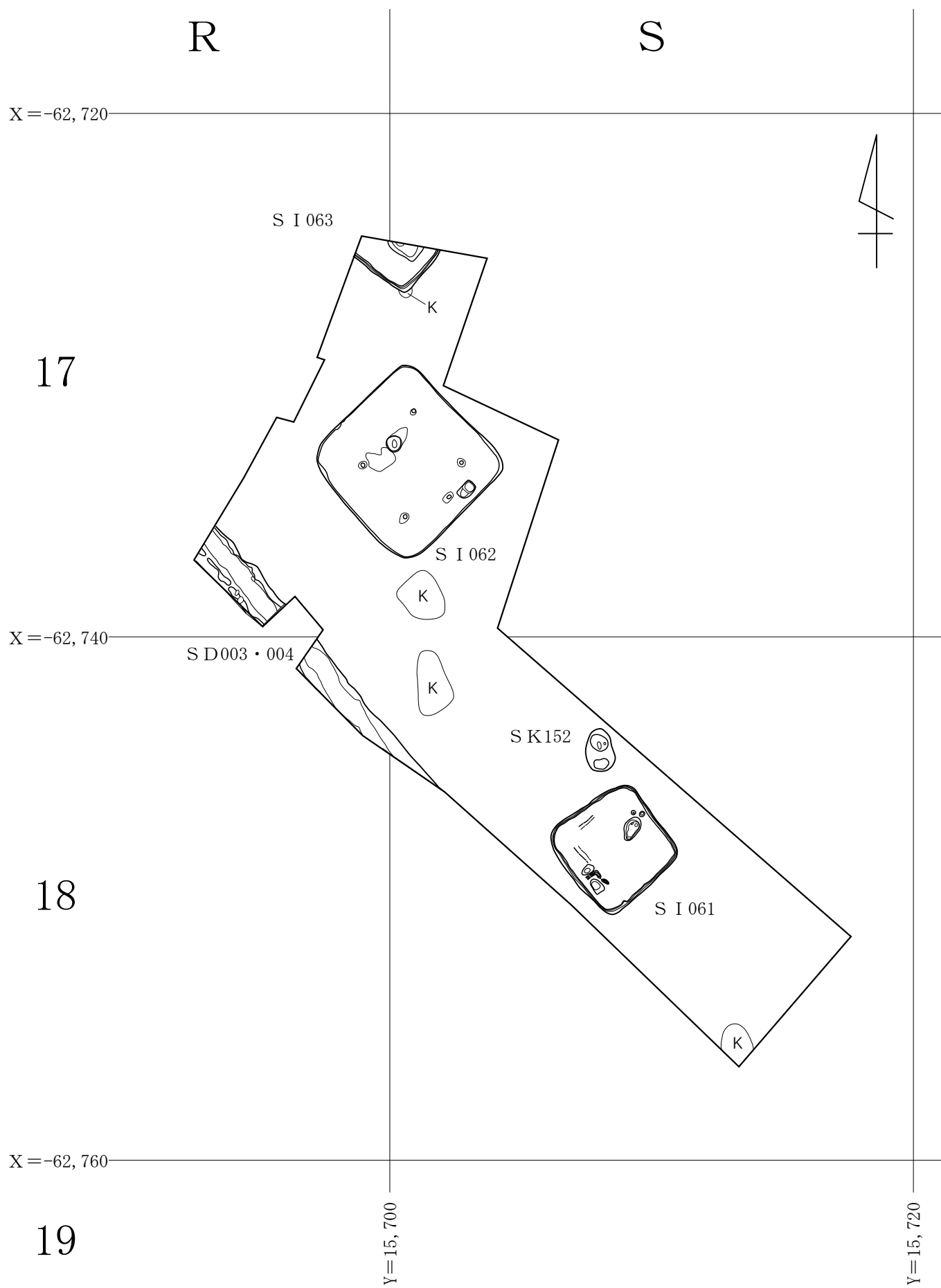
第20次調査（調査年：平成27年、調査主体：袖ヶ浦市教育委員会）（確認調査）

主な検出遺構：縄文時代陥穴1基

以上、過去の調査において、縄文時代炉穴262基・陥穴18基・土坑93基、弥生～古墳時代方形周溝墓1基、古墳時代竪穴住居60軒・竪穴状遺構1基・方墳2基・円墳1基・円形周溝状遺構1基・土坑1基・土坑墓2基、平安時代火葬墓2基、時期不明土坑37基・掘立柱建物1棟や多数の道路状遺構・溝状遺構が検出されている。



第2図 調査区位置図 (1 : 5,000)



第3図 調査区全体図 (1 : 200)

Ⅱ 検出された遺構と遺物

1. 調査の概要

本調査区は、本遺跡範囲の中心からやや北西部の標高約 42 m の台地平坦部に位置する。今回の調査では古墳時代竪穴住居 3 軒、近世溝状遺構 2 条、時期不明土坑 1 基を検出した。出土遺物は古墳時代土師器を主体とし、その他に同時期のものと推測される石器、土製品、鉄製品がわずかに出土した。

基本層序はⅠ：現表土、Ⅱ a～c：耕作土、Ⅱ d：ソフトローム漸移層、Ⅲ：ソフトローム層である。調査区の南部に通る道路沿いを除き、対象地は畑地として使用されていた時期もあり、耕作に伴う削平の影響を大きく受けているが、ソフトローム漸移層以下は良好に観察することができた。

2. 竪穴住居

S I 061

S 18-34・44 グリッドを中心に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、主軸方位はN -53° - Eをとる。主軸は 398 cm、副軸は 396 cmを測る。

遺存する壁面は南西壁面で 35 cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。壁面直下には幅 5～7 cm、床面から深さ 4～6 cmの周溝が全周する。床面中央部には硬質面が確認できる。ベット状遺構はL字状を呈し、南西部で幅 75 cm、北西部で 45 cmを測る。床面からの高さは約 5 cmである。炉は床面中央からやや北寄りに位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸方向はN -30° - Eをとる。長軸は 97 cm、短軸は 57 cm、炉の掘り込みは 7 cmを測る。P 1、P 2は炉の北部に位置する。共に楕円形を呈し、P 1は直径 20 cm、深さ 8 cm、P 2は直径 15 cm、深さ 10 cmを測る。隣接する炉との関係は不明である。P 3は梯子穴であり、南西壁面中央部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸は 52 cm、短軸は 33 cm、深さは 42 cmを測る。柱痕跡が確認でき、柱の直径は 11 cm、深さは 30 cmを測る。柱痕跡は壁面に向かって約 70° 傾く。P 4は貯蔵穴であり、南西壁面のやや南寄りに位置する。平面形は隅丸方形を呈する。長軸は 59 cm、短軸は 40 cm、深さは 7 cmを測る。貯蔵穴内から遺物は出土しなかった。貯蔵穴の北東部には幅 10～15 cm、高さ 5 cm程の堤状の盛土が貯蔵穴を囲むように構築される。蓋掛けの際の固定用の盛土と思われる。柱穴は検出されなかった。焼土は主に北部・東部の壁面沿いからまとまって検出された。床面中央部付近のものは床面直上からの検出であるが、壁面沿いのものは床面から 5～10 cm浮いた状態で検出された。住居覆土は 23 層が床面直上から壁面沿いを除くほぼ全面から確認でき、人為的な埋戻しの可能性も考えられる。1～22 層は自然堆積、35～49 層は貼床である。

遺物は土師器 8,590.53 g、石器 1点 479.79 g、土製品 1点 26.04 g、鉄製品 1点 8.56 g、礫 560.52 g が出土した。ほぼ完形で出土した甕（5・6・8）は床面直上からの出土であり、土玉（10）、鉄製品（11）は焼土内からの出土である。大部分の遺物が床面直上、もしくは 23 層内からの出土である。鉢（1）、小型甕（3）、甕（7）は梯子穴と貯蔵穴周辺の 23 層直上から積み重なるような状態でまとまって出土した。梯子穴の存在から南西壁面中央部に住居の入口があったと推測できるが、住居入口から住居内部に破棄したものであろうか。

S I 062

S 17-50・60 グリッドを中心に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、主軸方位はN -44° - Wをとる。主軸は 575 cm、副軸は 565 cmを測る。確認面ですでに床面が露出していた。

壁面は遺存しておらず詳細は不明である。硬化面、ベット状遺構、周溝は検出されなかった。炉は床面中央からやや北西寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し、主軸方向はN -51° - Wをとる。長軸は 57 cm、短軸は 55 cmを測る。炉の南西部からは炭化物が密集した状態で検出されており、焼土内からは多数の遺

物が出土した。P 1～4は柱穴であり、P 1は直径約 35 cm、深さ 41 cm、P 2は直径約 26 cm、深さ 51 cm、P 3は直径約 29 cm、深さ 54 cm、P 4は直径約 33 cm、深さ 46 cmを測る。それぞれ柱痕跡が確認でき、P 1は直径約 11 cm、P 2は直径約 15 cm、P 3は直径約 12 cm、P 4は直径約 10 cmを測る。P 5は梯子穴であり、南東壁面中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸は 52 cm、短軸は 44 cm、深さは 47 cmを測る。柱痕跡が確認でき、柱の直径は約 8 cmを測る。柱痕跡はほぼ垂直な形状である。P 2・4・5は柱痕跡を切るような自然堆積が見られることから、柱が切り取られた可能性も考えられる。P 6は貯蔵穴であり、南東壁面のやや北寄りに位置する。平面形は隅丸方形を呈する。長軸は 71 cm、短軸は 46 cm、深さは 18 cmを測る。貯蔵穴内から遺物は出土しなかった。

遺物は土師器 9,350.01 g、石器 1点 191.01 g、土製品 5点 158.68 g、礫 157.80 gが出土した。土師器は住居北部、特に P 2周辺から破碎した状態で出土したものが大半である。甕（1）はS字状口縁台付甕である。底部内面に長石・雲母等の粗い鉱物を多く含む粘土が補充されており、胎土・整形技法から、搬入品と推測される。赤塚次郎氏による分類のS字甕C類に該当する。甕（2）はP 2の覆土上層からの出土である。土玉（7～11）は北東壁面中央部からまとまって出土した。

S I 063

R 17-29、S 17-20 グリッドを中心に位置する。遺構の大部分は調査区外に展開する。平面形は隅丸方形と推測され、現存長軸方位はN -52° -Wをとる。現存長軸は 264 cm、現存短軸は 196 cmを測る。耕作土直下より検出され、遺存する壁面は 41 cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床面のほぼ全面より焼土が検出されることから焼失住居と思われる。焼土は 5～15 cm程の堆積であり、中央部より壁面沿いの方が厚く堆積する。床面直上に堆積した覆土（15・24・26層）の上層に焼土が堆積することから、住居廃棄後の焼失と思われる。壁面直下には、幅 10～18 cm、床面からの深さ 4～6 cmの周溝が全周する。周溝は南東隅のみ幅が 25 cmと若干広がる。P 1は柱穴であり、直径 23 cm、深さ 55 cmを測る。柱穴の北西部には掘り返された痕跡が確認できる。柱穴付近から焼土は検出されなかった。ベット状遺構は、南西部で幅 110 cm、南東部で幅 45 cmを測る。床面からの高さは 5～10 cmである。

遺物は縄文土器 46.98 g、土師器 42.07 gが出土した。縄文土器は覆土上層からの出土であり、流れ込んだものと思われる。土師器は古墳時代のものと思われる小片がわずかに出土したのみである。

3. 溝状遺構

S D 003・004

R 17・18、S 18 グリッドに位置し、調査区南西部の調査対象地境界沿いにN -39° -Wの方向に延びる。S D 003は深さ 43 cm、ソフトローム漸移層面において幅 130 cm以上を測る。S D 004は大部分が調査区外のため詳細は不明である。S D 004よりS D 003の方が新しい。S D 003の覆土上層には宝永の火山灰が堆積することから、近世以前の遺構と思われる。中六遺跡（1）の1・2号溝状遺構、中六遺跡（14）のS D 001・002の延長線上に位置し、延長方向が類似することから同一の遺構であり、道路であったものと推測する。

遺物は土師器 183.49 g、石器 1点 31.28 g、礫 172.27 gが出土した。砥石（1）はS D 003の覆土上層からの出土である。いずれも本調査区から検出された古墳時代堅穴住居と同時期のものと推測され、流れ込んだものと思われる。

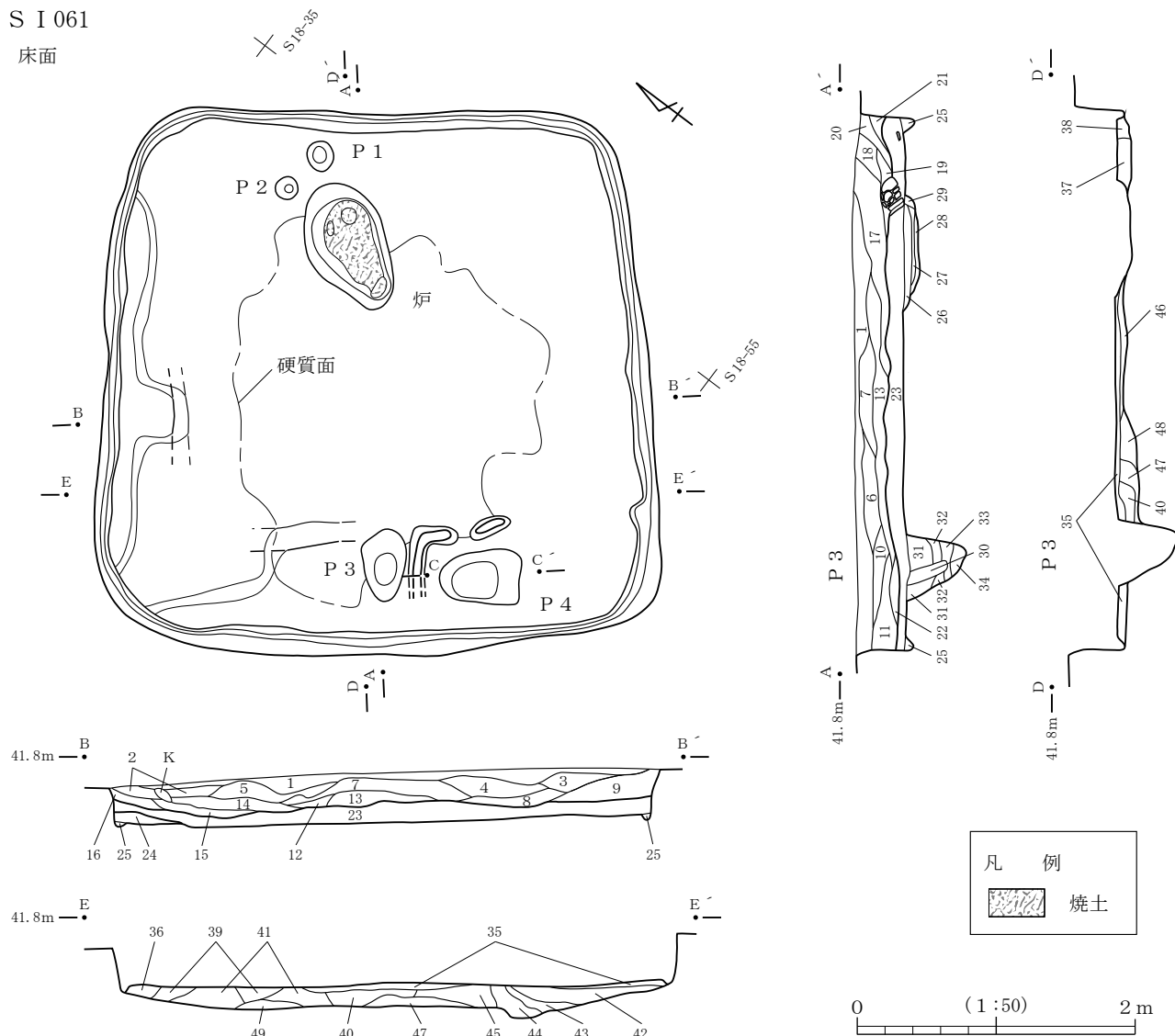
4. 土坑

S K 152

S 18-23 グリッドを中心に位置する。平面形は長楕円形を呈する。主軸はN -5° -Wで、長軸は 162 cm、短軸は 110 cm、深さは 36 cmを測る。遺物の出土がないことから時期は不明である。

S I 061

床面

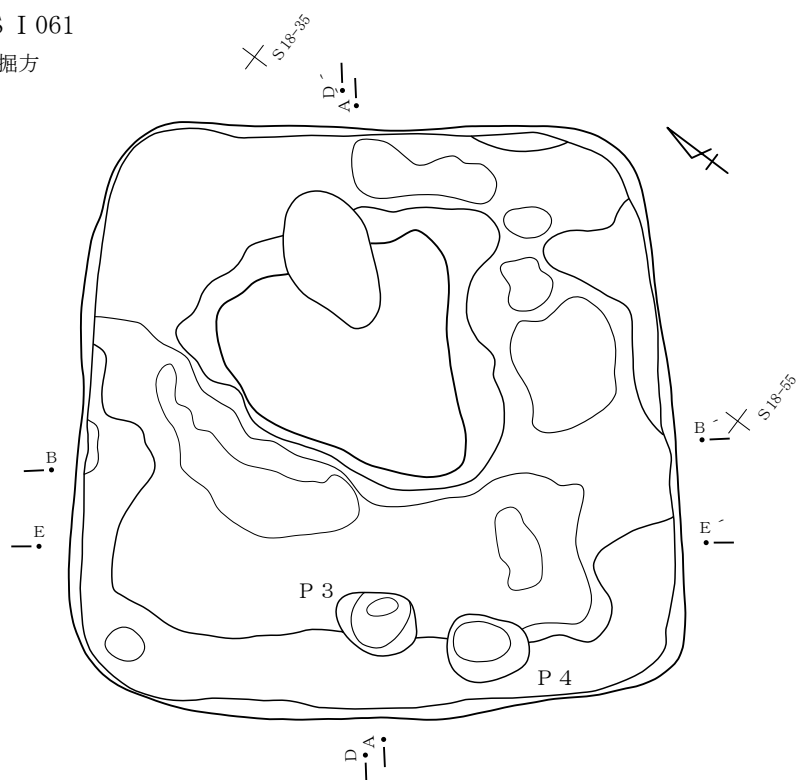


1 黒褐色土	粘性：やや弱い	しまり：普通	ローム粒子多量含む	31 黄褐色土	粘性：やや強い	しまり：強い	黒褐色土少量含む
2 暗褐色土	粘性：普通	しまり：強い	ローム粒子少量含む	32 黄褐色土	粘性：普通	しまり：強い	黒褐色土多量含む
3 暗褐色土	粘性：やや強い	しまり：弱い	ロームブロック、黒色土少量含む	33 黒褐色土	粘性：やや強い	しまり：強い	ローム粒子、黒色土多量含む
4 黒褐色土	粘性：強い	しまり：普通	ローム粒子少量含む	34 黒褐色土	粘性：強い	しまり：強い	黒色土少量含む
5 暗褐色土	粘性：強い	しまり：やや強い	ローム粒子多量含む	35 黒褐色土	粘性：やや強い	しまり：強い	ローム粒子多量含む
6 黒色土	粘性：やや弱い	しまり：普通	ローム粒子多量含む	36 黄褐色土	粘性：やや強い	しまり：強い	黒色土少量含む
7 黒褐色土	粘性：やや弱い	しまり：弱い	ローム粒子多量、黒色土少量含む	37 黒褐色土	粘性：やや強い	しまり：普通	ローム粒子、黒色土多量含む
8 黒褐色土	粘性：普通	しまり：弱い	ロームブロック少量含む	38 黄褐色土	粘性：やや強い	しまり：強い	黒色土多量含む
9 黒色土	粘性：やや強い	しまり：やや弱い	ローム粒子少量含む	39 黒色土	粘性：やや強い	しまり：強い	ローム粒子少量含む
10 黒褐色土	粘性：強い	しまり：やや弱い	ローム粒子少量含む	40 黒褐色土	粘性：やや強い	しまり：強い	ローム粒子、黒色土多量含む
11 黒色土	粘性：強い	しまり：やや弱い	ローム粒子多量含む	41 黒褐色土	粘性：やや強い	しまり：やや強い	ローム粒子少量含む
12 黒褐色土	粘性：強い	しまり：やや弱い	ローム粒子少量含む	42 黒褐色土	粘性：やや強い	しまり：やや強い	ローム粒子多量含む
13 黒褐色土	粘性：やや強い	しまり：普通	ローム粒子多量含む	43 黒色土	粘性：普通	しまり：やや弱い	ローム粒子、黒褐色土多量含む
14 黒褐色土	粘性：普通	しまり：やや弱い	ローム粒子・ブロック少量含む	44 黒褐色土	粘性：強い	しまり：普通	ローム粒子少量含む
15 暗褐色土	粘性：やや強い	しまり：普通	ローム粒子多量含む	45 黒褐色土	粘性：やや強い	しまり：やや強い	ローム粒子、黒色土少量含む
16 黒褐色土	粘性：やや弱い	しまり：やや強い	ロームブロック少量含む	46 黄褐色土	粘性：強い	しまり：強い	黒色土ブロック少量含む
17 褐色土	粘性：やや弱い	しまり：やや弱い	ローム粒子・ブロック多量含む	47 黄褐色土	粘性：強い	しまり：強い	黒色土少量含む
18 黒褐色土	粘性：強い	しまり：強い	ローム粒子少量含む	48 黒褐色土	粘性：やや強い	しまり：やや弱い	ローム粒子、黒色土少量含む
19 黒褐色土	粘性：普通	しまり：やや強い	ロームブロック少量含む	49 黒褐色土	粘性：やや強い	しまり：やや強い	ローム粒子多量含む
20 黒色土	粘性：やや強い	しまり：やや強い					
21 黒褐色土	粘性：普通	しまり：やや弱い	褐色土少量含む				
22 黒色土	粘性：やや強い	しまり：普通	ロームブロック多量含む				
23 黒色土	粘性：強い	しまり：やや弱い	ローム粒子少量含む				
24 暗褐色土	粘性：やや強い	しまり：普通	ローム粒子少量含む				
25 黄褐色土	粘性：やや強い	しまり：弱い	ボロボロ				
26 赤褐色土	粘性：なし	しまり：普通	焼土層				
27 赤褐色土	粘性：なし	しまり：やや弱い	焼土層、黒色土少量含む				
28 黄褐色土	粘性：やや強い	しまり：強い	黒色土少量含む				
29 褐色土	粘性：普通	しまり：強い	ローム粒子少量含む				
30 黒褐色土	粘性：弱い	しまり：やや弱い	ローム粒子多量含む				

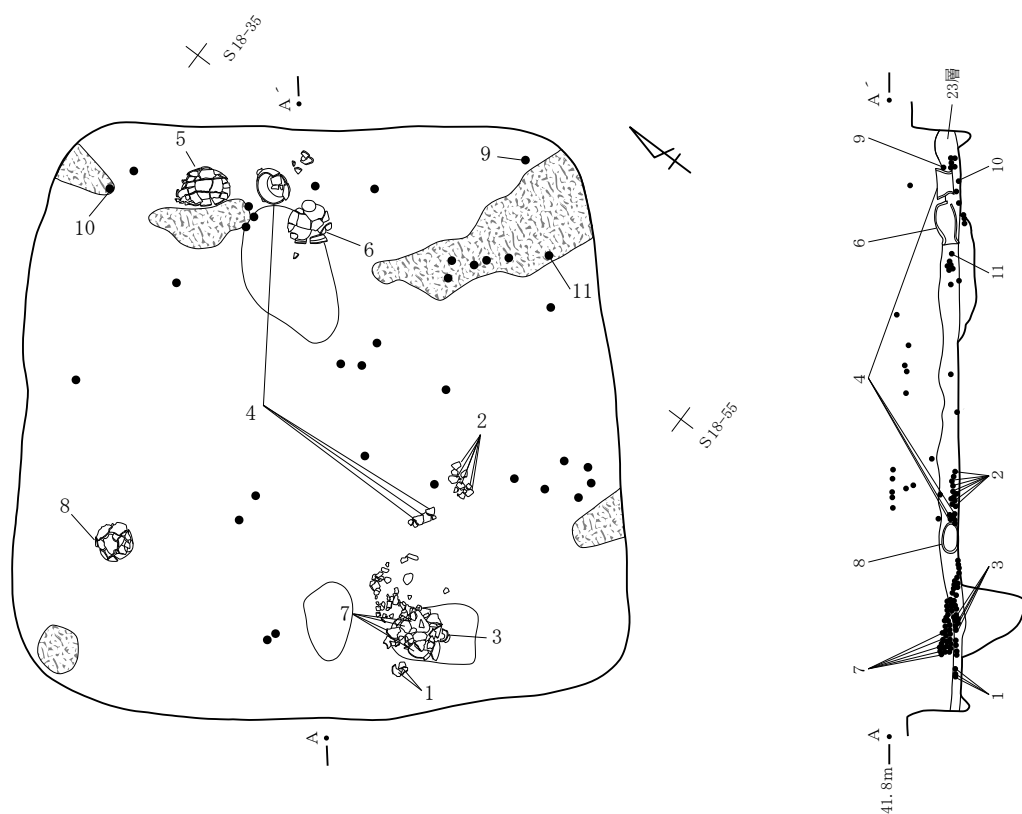
第4図 S I 061 平面図①・土層断面図

S I 061

掘方



遺物出土状況



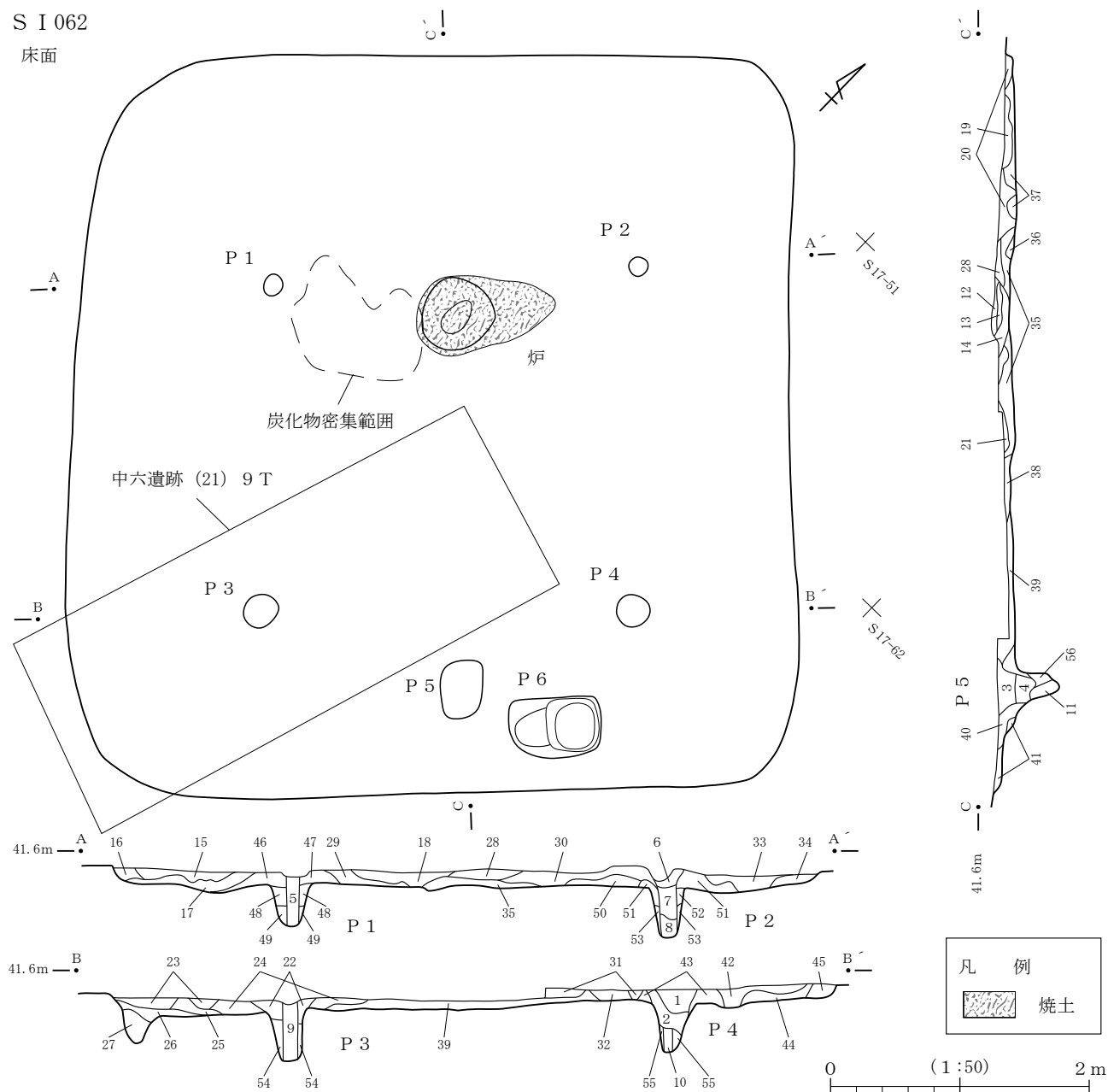
0 (1:50) 2m

凡 例
焼土

第5図 S I 061 平面図②・遺物出土状況図



第6図 S I 061 出土遺物実測図

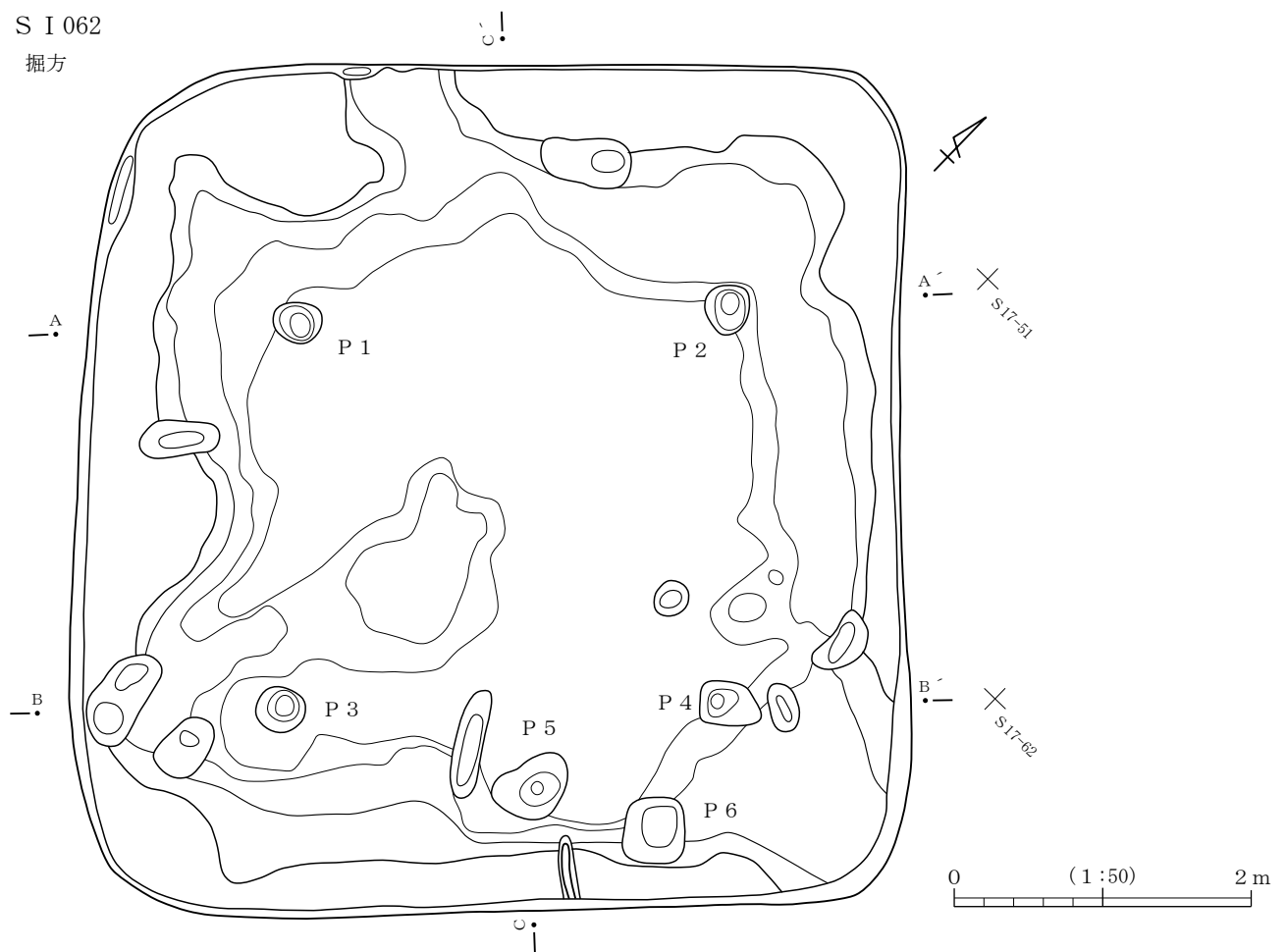


1	黒色土	粘性: やや弱い	しまり: 普通	ローム粒子・ブロック少量含む	29	黄褐色土	粘性: やや強い	しまり: 強い	黒色土少量含む
2	黒褐色土	粘性: やや強い	しまり: やや強い	ローム粒子少量含む	30	黒褐色土	粘性: 普通	しまり: やや強い	ローム粒子多量含む
3	黒褐色土	粘性: やや弱い	しまり: やや強い	ローム粒子少量含む	31	黒褐色土	粘性: やや弱い	しまり: やや弱い	ローム粒子多量含む
4	黒色土	粘性: 普通	しまり: やや弱い	ローム粒子少量含む	32	黄褐色土	粘性: やや強い	しまり: 普通	黒褐色土多量含む
5	黒色土	粘性: やや弱い	しまり: 弱い	ボソボソ、ローム粒子少量含む	33	黒色土	粘性: 普通	しまり: やや強い	ローム粒子少量含む
6	褐色土	粘性: 弱い	しまり: やや弱い	ローム粒子多量含む	34	黄褐色土	粘性: やや強い	しまり: 強い	黒色土少量含む
7	黒褐色土	粘性: 弱い	しまり: 弱い	ローム粒子少量含む	35	黄褐色土	粘性: 強い	しまり: 強い	黒色土多量含む
8	黒色土	粘性: 弱い	しまり: やや弱い	ローム粒子少量含む	36	黒色土	粘性: やや強い	しまり: 強い	ローム粒子多量含む
9	黒色土	粘性: やや弱い	しまり: 弱い	ローム粒子少量含む	37	黄褐色土	粘性: 強い	しまり: やや強い	黒色土少量含む
10	黒色土	粘性: やや弱い	しまり: 弱い	ローム粒子多量含む	38	黒褐色土	粘性: 強い	しまり: やや弱い	ローム粒子多量含む
11	黒色土	粘性: やや強い	しまり: やや弱い	ボソボソ、ローム粒子少量含む	39	黄褐色土	粘性: 強い	しまり: 普通	黒色土少量含む
12	赤褐色土	粘性: やや強い	しまり: 強い	焼土層、黒色土少量含む	40	黒褐色土	粘性: やや強い	しまり: 強い	ローム粒子多量含む
13	赤褐色土	粘性: 普通	しまり: 強い	焼土層、ローム粒子少量含む	41	黄褐色土	粘性: 強い	しまり: 普通	黒色土多量含む
14	黒褐色土	粘性: やや強い	しまり: 普通	焼土、ローム粒子少量含む	42	黒色土	粘性: 普通	しまり: 強い	ローム粒子少量含む
15	黒褐色土	粘性: やや強い	しまり: やや弱い	ローム粒子少量含む	43	黄褐色土	粘性: 強い	しまり: 強い	黒色土多量含む
16	黄褐色土	粘性: 強い	しまり: 強い	黒色土多量含む	44	黄褐色土	粘性: 強い	しまり: やや強い	黒色土多量含む
17	黒色土	粘性: やや強い	しまり: やや強い	ローム粒子多量含む	45	黒褐色土	粘性: 普通	しまり: やや強い	ローム粒子多量含む
18	黒褐色土	粘性: 普通	しまり: やや弱い	ローム粒子少量含む	46	黒褐色土	粘性: 普通	しまり: 強い	ローム粒子少量含む
19	黒色土	粘性: 強い	しまり: やや強い	ローム粒子多量含む	47	黄褐色土	粘性: 強い	しまり: 強い	黒色土少量含む
20	黒褐色土	粘性: 普通	しまり: 普通	ローム粒子多量含む	48	黒色土	粘性: 強い	しまり: 強い	ローム粒子多量含む
21	黒褐色土	粘性: 強い	しまり: 強い	ローム粒子多量含む	49	黒褐色土	粘性: 強い	しまり: 強い	ローム粒子少量含む
22	黒褐色土	粘性: やや強い	しまり: 強い	ローム粒子少量含む	50	黒色土	粘性: やや強い	しまり: やや弱い	ローム粒子・ブロック多量含む
23	黒褐色土	粘性: やや強い	しまり: やや強い	ローム粒子少量含む	51	黄褐色土	粘性: 強い	しまり: 普通	黒色土多量含む
24	黄褐色土	粘性: 強い	しまり: 強い	黒色土多量含む	52	黒褐色土	粘性: 普通	しまり: 普通	ローム粒子少量含む
25	黄褐色土	粘性: 強い	しまり: やや強い	黒色土少量含む	53	黄褐色土	粘性: 強い	しまり: 強い	黒色土少量含む
26	黒褐色土	粘性: やや弱い	しまり: 普通	ローム粒子多量含む	54	黒褐色土	粘性: やや強い	しまり: 強い	ローム粒子多量含む
27	黒色土	粘性: やや強い	しまり: 強い	ローム粒子少量含む	55	黒褐色土	粘性: やや弱い	しまり: 強い	ローム粒子少量含む
28	黒色土	粘性: 強い	しまり: やや強い	ローム粒子少量含む	56	黒褐色土	粘性: 普通	しまり: 強い	ローム粒子少量含む

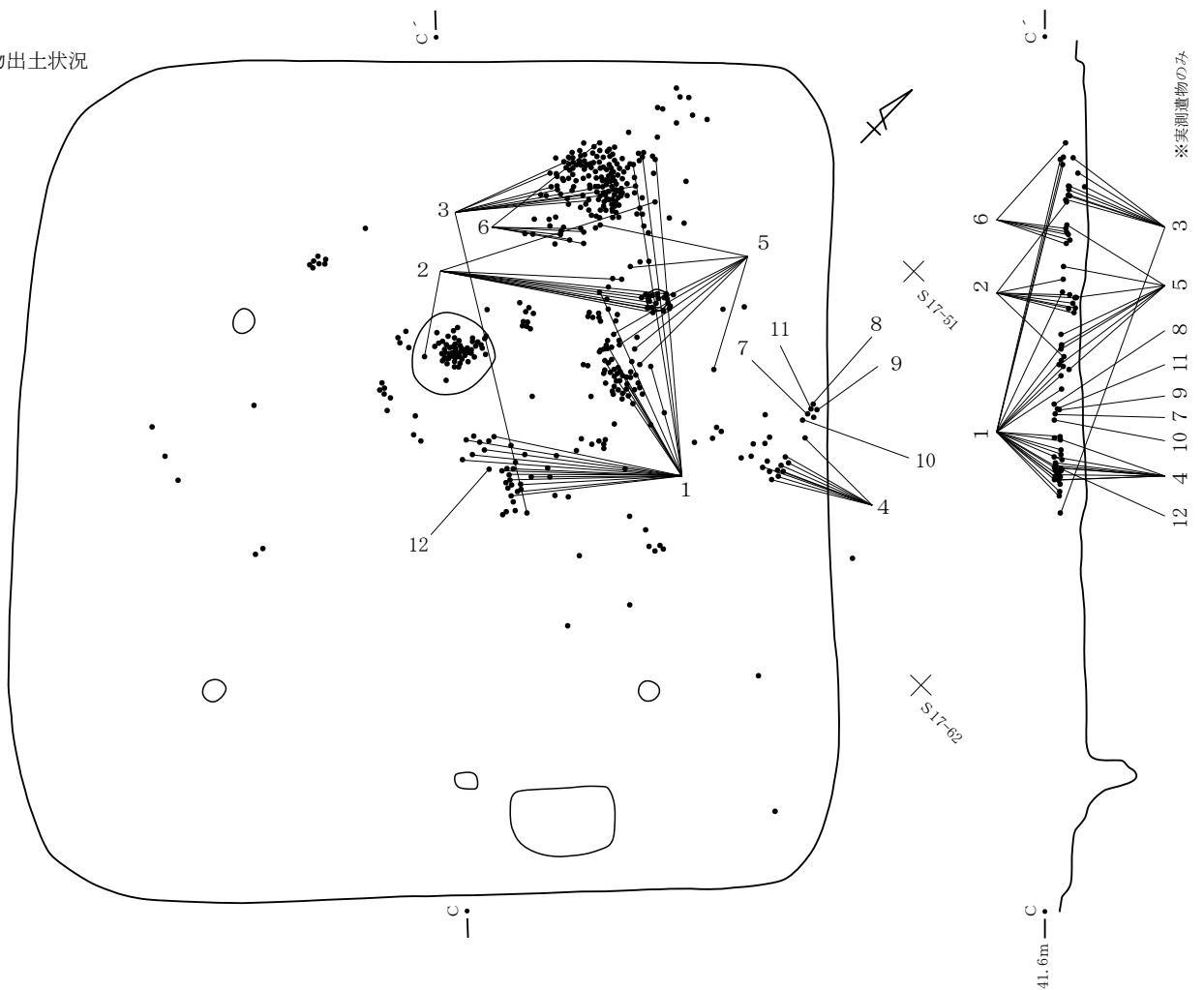
第7図 S I 062 平面図①・土層断面図

S I 062

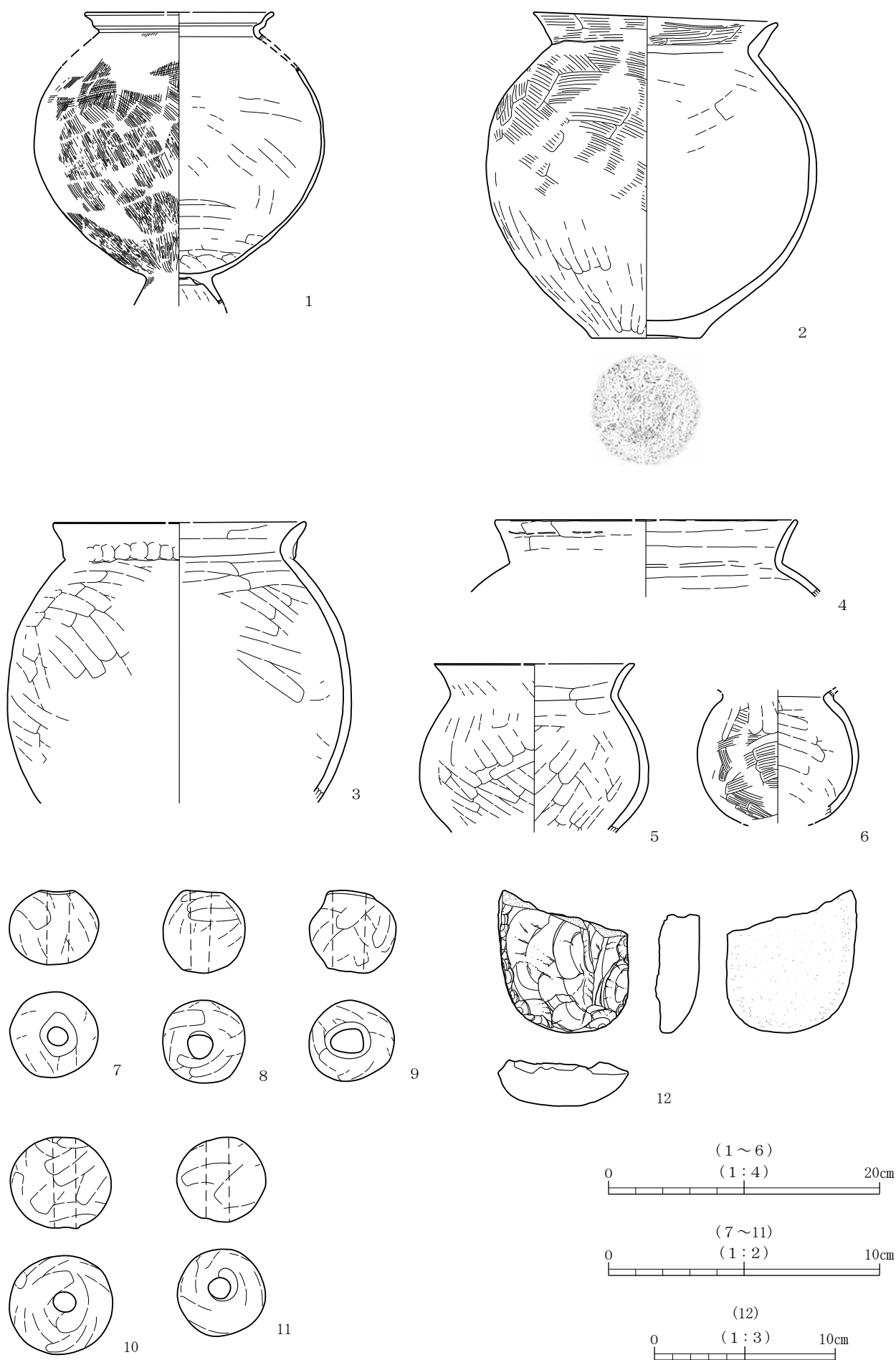
掘方



遺物出土状況

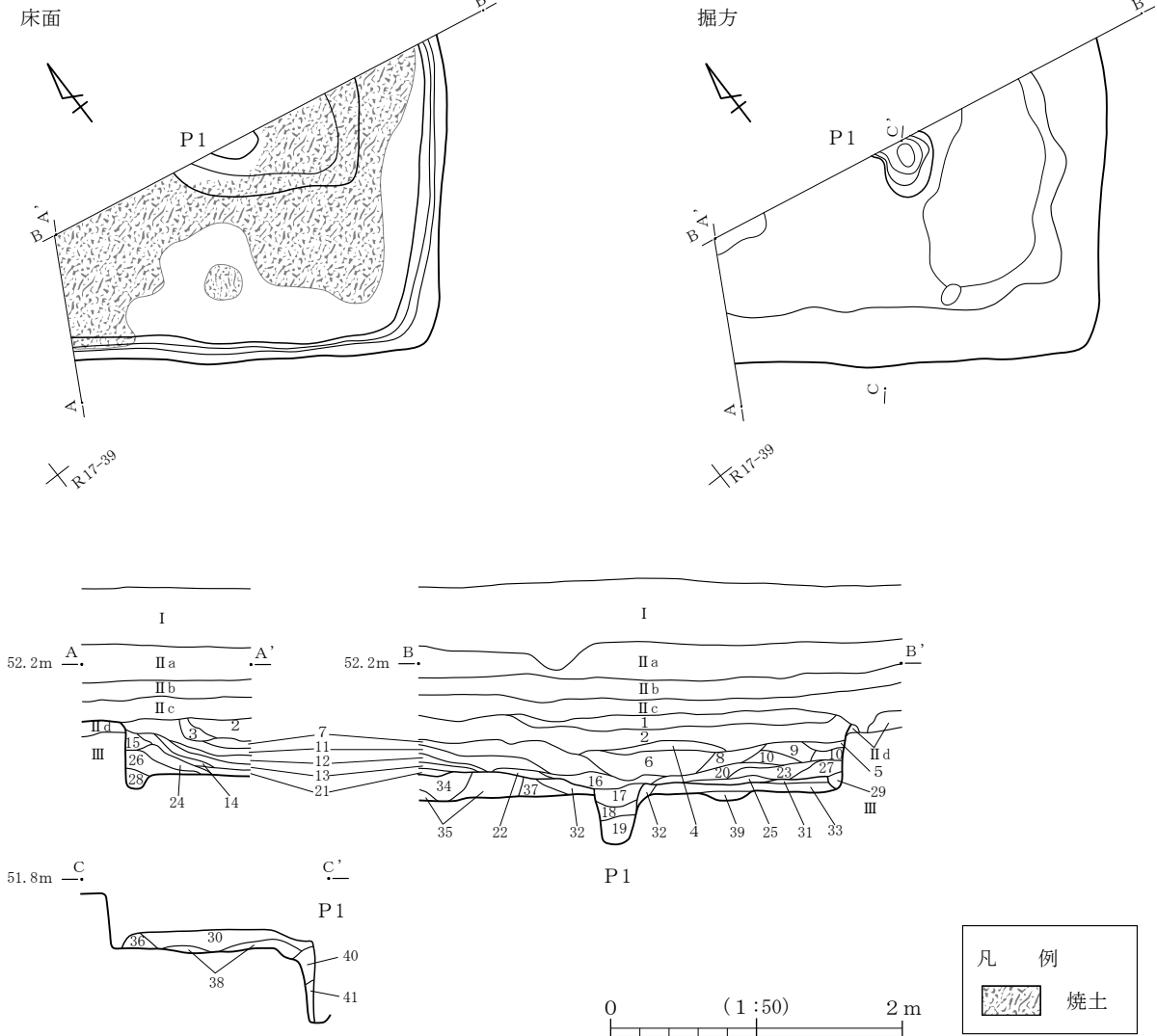


第8図 S I 062 平面図②・遺物出土状況図



第9図 S I 062 出土遺物実測図

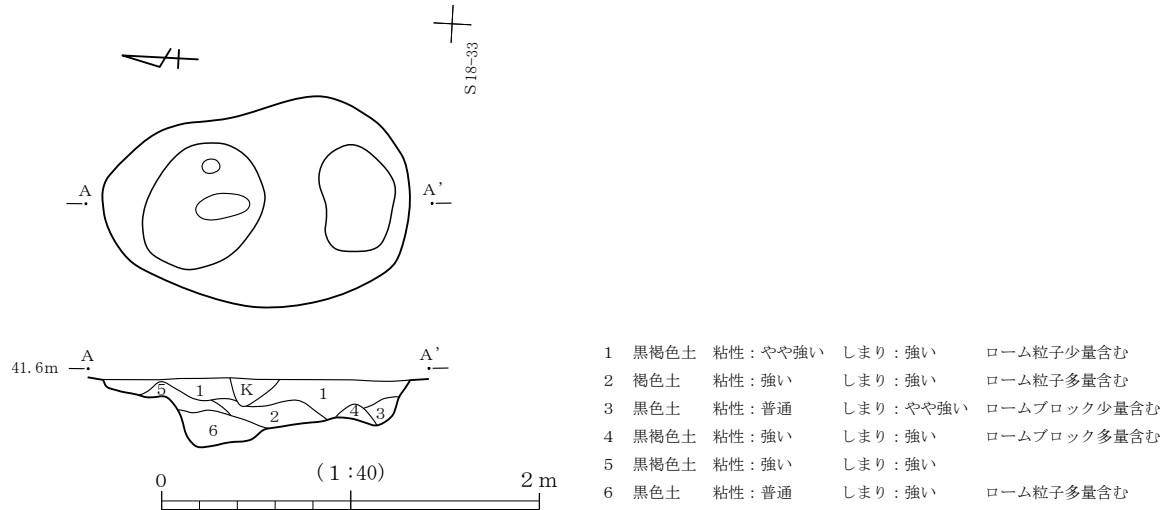
S I 063



- | | | | | | |
|-----------------|----------|----------------|-----------------|----------|----------------|
| 1 暗褐色土 粘性：普通 | しまり：やや弱い | ローム粒子多量含む | 22 暗褐色土 粘性：やや強い | しまり：やや強い | 焼土少量含む |
| 2 暗褐色土 粘性：強い | しまり：やや強い | ローム粒子多量含む | 23 赤褐色土 粘性：弱い | しまり：やや強い | 焼土層、黒色土多量含む |
| 3 黄褐色土 粘性：強い | しまり：やや強い | 暗褐色土多量含む | 24 赤褐色土 粘性：弱い | しまり：やや強い | 焼土層、黒色土多量含む |
| 4 黒褐色土 粘性：やや弱い | しまり：やや強い | ローム粒子少量含む | 25 暗褐色土 粘性：やや強い | しまり：強い | 焼土、ローム粒子少量含む |
| 5 黒色土 粘性：普通 | しまり：強い | ローム粒子少量含む | 26 黒褐色土 粘性：普通 | しまり：やや強い | ローム粒子少量含む |
| 6 黒褐色土 粘性：普通 | しまり：やや強い | ローム粒子・ブロック多量含む | 27 暗褐色土 粘性：普通 | しまり：普通 | ローム粒子多量含む |
| 7 黒色土 粘性：やや弱い | しまり：やや弱い | ロームブロック少量含む | 28 黄褐色土 粘性：強い | しまり：普通 | 暗褐色土多量含む |
| 8 暗褐色土 粘性：やや弱い | しまり：やや強い | ローム粒子少量含む | 29 黒褐色土 粘性：やや強い | しまり：弱い | ローム粒子少量含む |
| 9 黒褐色土 粘性：やや弱い | しまり：普通 | ローム粒子少量含む | 30 黒色土 粘性：やや強い | しまり：強い | ローム粒子・ブロック多量含む |
| 10 暗褐色土 粘性：やや強い | しまり：やや強い | ローム粒子多量含む | 31 暗褐色土 粘性：強い | しまり：やや強い | ローム粒子多量含む |
| 11 暗褐色土 粘性：強い | しまり：強い | ローム粒子、黒色土少量含む | 32 黄褐色土 粘性：強い | しまり：強い | 暗褐色土少量含む |
| 12 黒褐色土 粘性：やや弱い | しまり：やや強い | ローム粒子少量含む | 33 黄褐色土 粘性：強い | しまり：強い | 黒褐色土多量含む |
| 13 暗褐色土 粘性：やや強い | しまり：普通 | ローム粒子多量含む | 34 黒褐色土 粘性：やや強い | しまり：強い | ローム粒子・ブロック多量含む |
| 14 黒色土 粘性：やや強い | しまり：やや弱い | ローム粒子少量含む | 35 黄褐色土 粘性：強い | しまり：やや強い | 黒褐色土多量含む |
| 15 暗褐色土 粘性：やや弱い | しまり：普通 | ローム粒子多量含む | 36 黄褐色土 粘性：強い | しまり：強い | 黒褐色土多量含む |
| 16 黒褐色土 粘性：普通 | しまり：やや弱い | ローム粒子少量含む | 37 黒褐色土 粘性：やや強い | しまり：普通 | ローム粒子多量含む |
| 17 黒褐色土 粘性：やや弱い | しまり：やや弱い | ローム粒子多量含む | 38 黄褐色土 粘性：強い | しまり：やや強い | 黒褐色土少量含む |
| 18 黒褐色土 粘性：普通 | しまり：弱い | ローム粒子少量含む | 39 黒褐色土 粘性：強い | しまり：普通 | ローム粒子多量含む |
| 19 黄褐色土 粘性：強い | しまり：普通 | 黒褐色土多量含む | 40 黒褐色土 粘性：やや強い | しまり：強い | ローム粒子多量含む |
| 20 黒褐色土 粘性：普通 | しまり：やや強い | 焼土少量含む | 41 黒色土 粘性：普通 | しまり：強い | ローム粒子少量含む |
| 21 黒色土 粘性：やや弱い | しまり：やや弱い | 焼土、ローム粒子少量含む | | | |

第10図 S I 063 平面図・土層断面図

SK152



第 12 図 S K 152 平面図・土層断面図

第 1 表 出土遺物観察表

() : 復元

遺構名	遺物番号	器種	部位依存率	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	重量 (g)	色調	調整技法等	備考
S I 061	1	鉢	胴部～口縁部：50% 底部：70%	(9.6)	4.5	3.9	97.49	黄褐	外面：横位ヘラナデ 内面：横位・斜位ヘラナデ	
S I 061	2	高坏	胴部～口縁部：50%	(15.7)	-	-	120.58	赤褐	外面：（口縁部）横位ヘラナデ （胴部）縦位ヘラナデ 内面：（体部）縦位ミガキ	内外面に赤彩
S I 061	3	甕	口縁部：70% 胴部：40%	9.4	-	-	227.57	明褐	外面：（胴部）縦位・斜位ヘラナデ→ （頸部）縦位ヘラナデ→（口縁部）横位ナデ 内面：横位・斜位ヘラナデ	小型甕 口縁部に2か所穿孔有
S I 061	4	甕	口縁部：100% 胴部：50%	17.9	-	-	1,103.04	明黄褐	外面：（胴部）横位ハケメ→（頸部）縦位ハケメ →（口縁部）横位ナデ 内面：（口縁部）横位ナデ （胴部）横位・斜位ヘラナデ	
S I 061	5	甕	胴部：80% 底部：100%	-	-	7.9	501.58	橙	外面：斜位ハケメ 内面：ヘラナデ	
S I 061	6	甕	ほぼ完形	16.2	21.5	8.6	1,245.69	明褐	外面：（胴下部）縦位ヘラナデ （胴上部）縦位・斜位ヘラナデ （頸部）縦位ヘラナデ→（口縁部）横位ナデ 内面：横位ヘラナデ	
S I 061	7	甕	ほぼ完形	17.0	20.0	5.0	911.90	明赤褐	外面：（胴部）縦位・斜位ハケメ→ （頸部）縦位ハケメ→（口縁部）横位ナデ 内面：縦位・斜位ヘラナデ	
S I 061	8	甕	ほぼ完形	-	-	7.2	1,021.91	明黄褐	外面：縦位・斜位ヘラナデ （頸部）ハケメ、（胴中部）横位ヘラナデ、ミガキ 内面：横位・斜位ヘラナデ	口縁部は輪積接合部で 剥離
S I 061	9	砥石		最大長 12.0	最大幅 6.9	最大厚 5.2	479.79			
S I 061	10	土玉	50%	直径 3.9	3.1	孔径 0.7	26.04	にぶい褐	ヘラナデ	
S I 061	11	鉄製品		最大長 -	最大幅 2.3	最大厚 0.2	8.56			刀子か？
S I 062	1	甕	胴部：40% 底部：50%	(14.0)	-	-	198.73	浅黄橙	外面：斜位ハケメ （口縁部）横位ナデ、（頸部）横位沈線1条 内面：横位・斜位ヘラナデ （口縁部）横位ナデ	S字状口縁台付甕 （C類）
S I 062	2	甕	ほぼ完形	18.0	24.1	8.2	1,702.92	にぶい赤褐	外面：（口縁部）横位ハケメ、（胴上部）斜位ハケメ （胴下部）縦位ヘラナデ 内面：（口縁部）横位ハケメ、（胴部）斜位ヘラナデ	頸部に輪積痕有 底部に木の葉痕有
S I 062	3	甕	30%	(18.5)	-	-	431.59	褐	外面：（口縁部）横位ナデ、（頸部）指圧痕 （胴部）斜位ヘラナデ 内面：横位・斜位ヘラナデ	頸部に輪積痕有
S I 062	4	甕	口縁部：40%	(22.4)	-	-	151.02	明褐	外面：（口縁部）横位ナデ 内面：（口縁部）横位ナデ	口縁部・頸部に 輪積痕有
S I 062	5	甕	30%	(14.8)	-	-	185.47	褐	外面：縦位・斜位ヘラナデ 内面：横位・斜位ヘラナデ	小型甕
S I 062	6	甕	50%	-	-	-	176.98	赤褐	外面：ハケメ→縦位ヘラナデ 内面：横位・斜位ヘラナデ	小型甕
S I 062	7	土玉	完形	直径 3.3	2.8	孔径 0.8	28.83	にぶい赤褐	ヘラナデ	
S I 062	8	土玉	80%	直径 3.1	3.1	孔径 0.9	26.62	にぶい褐	ヘラナデ	
S I 062	9	土玉	完形	直径 3.2	3.1	孔径 1.3	27.19	褐	ヘラナデ	
S I 062	10	土玉	完形	直径 3.8	3.4	孔径 0.8	45.10	褐	ヘラナデ	
S I 062	11	土玉	完形	直径 3.3	3.2	孔径 0.8	30.94	褐	ヘラナデ	
S I 062	12	鎌斧		最大長 -	最大幅 7.1	最大厚 2.2	191.01			
S D 003	1	砥石		最大長 -	最大幅 3.8	最大厚 1.1	31.28			

Ⅲ 総括

今回の調査では古墳時代の竪穴住居 3 軒、近世以前溝状遺構 2 条、時期不明土坑 1 基を検出した。古墳時代竪穴住居は、S I 061・062 の出土遺物から古墳時代前期のものと推測でき、過去の調査で検出されている竪穴住居 60 軒と同様の時期のものと推測できる。遺構に伴う遺物の出土はないが、S I 063 も同時期のものと考えて間違いないだろう。本遺跡の竪穴住居は主軸 5 m 未満の小型のもの、主軸 5 ～ 6 m の中型のもの、主軸 6 m 以上の大型のものに大まかに分けられ、小型のものはほとんどが柱穴を持たず、中型のもので半数以上が柱穴を持ち、大型のものだとほとんどが柱穴を持つようになる。本調査区検出の竪穴住居もこの分類通り、小型に当てはまる S I 061 は柱穴を持たず、中型に当てはまる S I 062 は柱穴を持つ。S I 063 の全形は不明であるが、柱穴を有することから主軸 5 m 以上の中型以上のものと類推する。主軸方位に関しては、S I 061 は北東 - 南西方位、S I 062 は北西 - 南東方位である。過去の調査で検出された竪穴住居で主軸方位がわかる 56 軒の内、北東 - 南西方位のものは 3 軒のみと少ない。

本調査区で検出された竪穴住居 3 軒は、焼土・柱・出土遺物の検出状況から、住居廃棄後に何らかの手が加えられていることがわかる。過去の調査で検出された竪穴住居の内、炉以外から焼土が検出された例は 22 軒あり、そのうち床面直上以外から検出されたものが 20 軒と大多数を占める。いずれも S I 061・063 と同様に、焼土下の床面に堆積した土層は 10 cm 程のものであり、住居が廃棄されてからあまり時間差がない段階で発生したものと思われる。また、S I 063 では床面のほぼ全域から焼土が検出されたことから焼失住居と推測するが、出土遺物はほとんどないため、突発的な焼失ではなく、意図的な焼失の可能性がある。柱穴・梯子穴に使用された柱は、S I 062 では切り取り、S I 063 では抜き取りの痕跡が確認できる。また、S I 062 の柱は、すべてが切り取られたわけではないため、再利用のために遺存状況をもとにした選別が行われたものと推測する。出土遺物は、S I 061 では住居廃棄後の埋戻し土層内及びその上層、S I 062 では床面から多量の土器が出土している。また、S I 062 は切り取られた柱の柱穴上層から土器がまとまって出土している。中六遺跡 (12) の S I 033 からも同様の出土状況が確認でき、埋納された可能性も考えられる。いずれも移住に伴うと思われる計画的な廃棄・解体作業と思われるが、今回検出された 3 軒はそれぞれ異なる工程が確認される。過去の調査においても類似した工程が確認できることから、いくつかのパターンが想定できるが、この違いが時期によるものなのか、それぞれの竪穴住居の性格を表すものなのかは不明である。また、本遺跡検出の竪穴住居は切り合っているものが少なく、周辺に立地する同時期の集落である上大城遺跡、台山遺跡から検出される多数の重複する竪穴住居とは様相が異なる。これらの違いは、周辺に数多く分布する古墳時代前期の遺跡の中で、中六遺跡の集落の性格を表しているのかもしれない。

参考文献

- | | |
|----------|--|
| 井口崇 | 1987『中六遺跡』(財) 君津郡市文化財センター |
| 赤塚次郎 | 1990『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター |
| 石野博信 | 1990『日本原始・古代住居の研究』(株) 吉川弘文館 |
| 桐村修司他 | 1993『中六遺跡Ⅱ』(財) 君津郡市文化財センター |
| 土器 B 研究班 | 1996「君津地方における弥生後期～古墳前期の土器編年」『研究紀要Ⅶ』(財) 君津郡市文化財センター |
| 豊巻幸正他 | 2005『上大城遺跡Ⅱ』(財) 君津郡市文化財センター |
| 西原崇浩 | 2007『中六遺跡 (10)』袖ヶ浦市教育委員会 |
| 西原崇浩 | 2011『中六遺跡第 11 次・第 12 次発掘調査報告書』袖ヶ浦市教育委員会 |
| 田中大介他 | 2013『中六遺跡 (14)』袖ヶ浦市教育委員会 |
| 西原崇浩 | 2013『中六遺跡第 16 次発掘調査報告書』袖ヶ浦市教育委員会 |
| 桐村久美子 | 2014『中六遺跡第 18 次発掘調査報告書』袖ヶ浦市教育委員会 |

写真図版



1. 調査前全景（西→）



2. S I 061 遺物出土状況（全景）（南西→）



3. S I 061 遺物出土状況（1～4・7）（南東→）



4. S I 061 遺物出土状況（4・5）（北西→）



5. S I 061 遺物出土状況（6）（南東→）



6. S I 061 遺物出土状況（8）（南西→）



7. S I 061 焼土検出状況（北→）



8. S I 061 完掘（南西→）



1. S I 061 炉完掘 (南→)



2. S I 061 貯蔵穴完掘 (南西→)



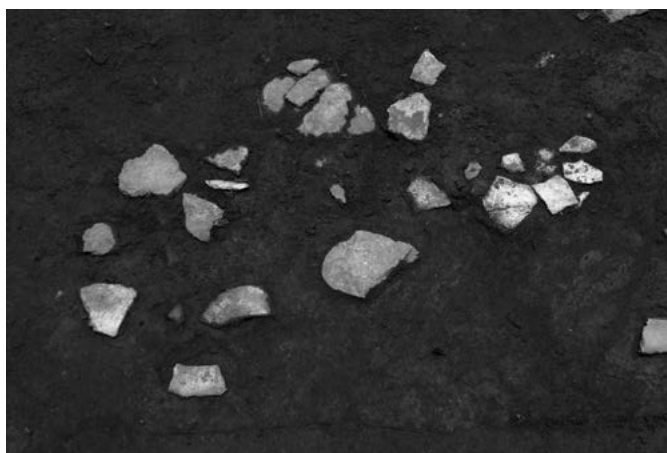
3. S I 061 梯子穴断面 (南東→)



4. S I 061 掘方 (南西→)



5. S I 062 遺物出土状況 (北部) (南西→)



6. S I 062 遺物出土状況 (1・12) (南西→)



7. S I 062 遺物出土状況 (2) (西→)



8. S I 062 遺物出土状況 (7～11) (南西→)



1. S I 062 完掘 (南東→)



2. S I 062 貯蔵穴完掘 (南東→)



3. S I 062 炉完掘 (南東→)



4. S I 062 貼床断面 (南東→)



5. S I 062 掘方 (南東→)



6. S I 063 焼土検出状況 (南東→)



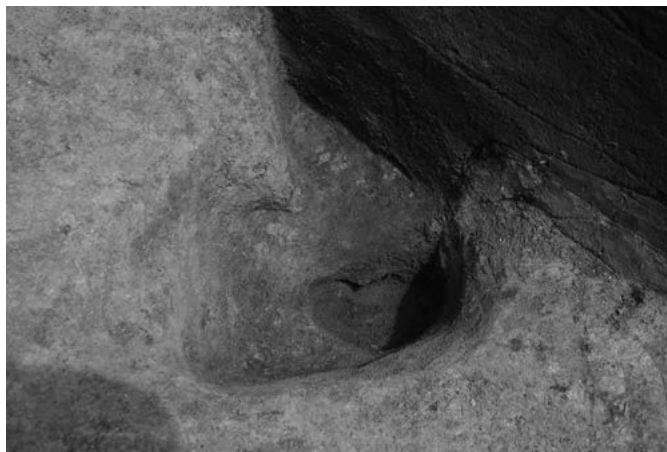
7. S I 063 完掘 (南東→)



8. S I 063 断面 (西面) (南東→)



1. S I 063 断面 (北面) (南→)



2. S I 063 柱穴完掘 (南東→)



3. S I 063 掘方 (南東→)



4. S D 003・004 (西) 完掘 (北東→)



5. S D 003・004 (西) 断面 (西面) (南東→)



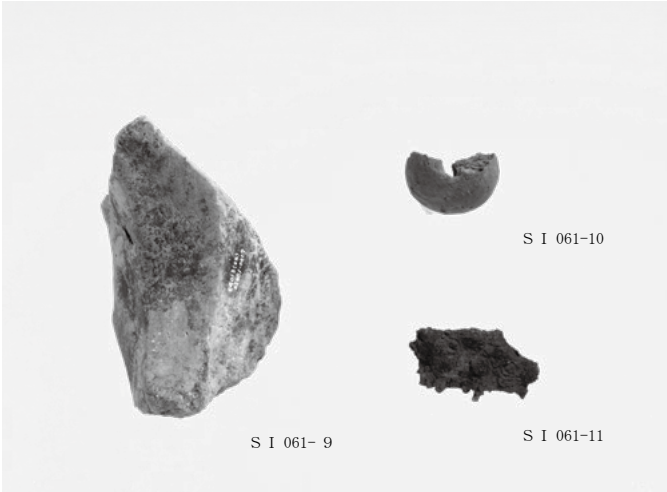
6. S D 003・004 (東) 完掘 (北西→)

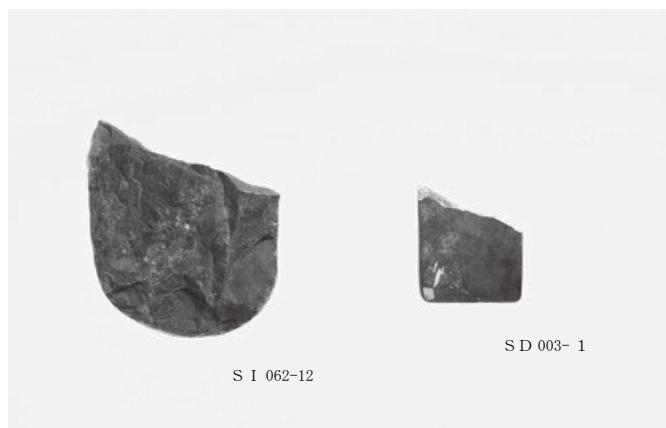
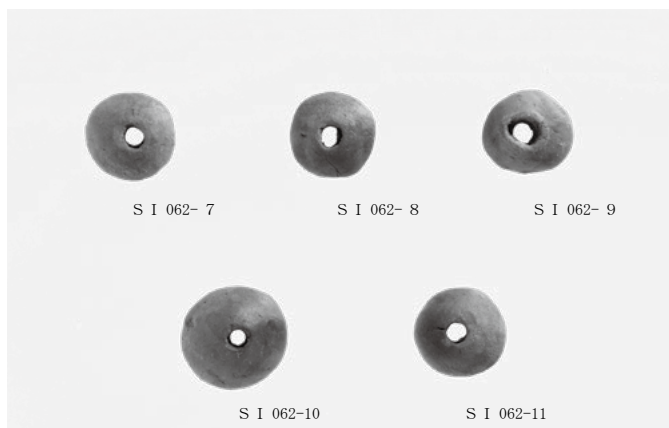
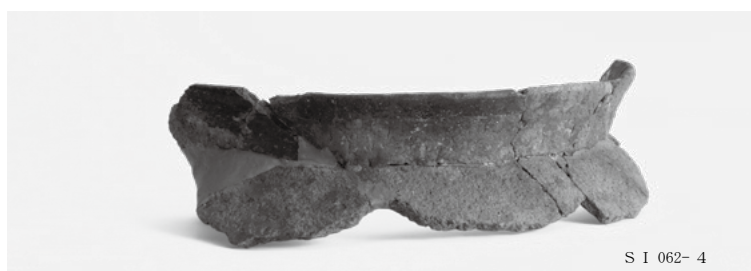


7. S D 003・004 (東) 断面 (西面) (南東→)



8. S K 152 完掘 (西→)





報告書抄録

ふりがな	ちゅうろいせき (22)								
書名	中六遺跡 (22)								
副書名	蔵波地区宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ名	袖ヶ浦市埋蔵文化財発掘調査報告書								
シリーズ番号	第 30 集								
編著者名	大河原 務								
編集機関	袖ヶ浦市教育委員会								
所在地	〒299-0292 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1 番地 1 TEL 0438-62-2111								
発行年月日	2019 年 3 月 13 日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地		コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
			市町村	遺跡番号					
ちゅうろ 中六遺跡 (22)	ちばけんそでがうらし 千葉県袖ヶ浦市 くらなみあざちゅうろ 蔵波字中六 1,259 番地 51 の一部他		12229	SG013	35° 26' 4"	140° 0' 23"	20160523 ～ 20160630	360	記録保存 調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
中六遺跡	包蔵地 集落	縄文時代 古墳時代	古墳時代竪穴住居 3 軒、 近世溝状遺構 2 条		古墳時代土師器・石 器・土製品・鉄製品		3 軒の竪穴住居のうち、2 軒からは床面直上から浮 いた状態で焼土が検出された。		
要約	古墳時代前期の竪穴住居を 3 軒検出した。宝永の火山灰が堆積した溝状遺構 2 条は、過去に隣接する調査区から検出された近 世の溝状遺構につながるものと推測される。								

2019 年 3 月 6 日 印刷

2019 年 3 月 13 日 発行

袖ヶ浦市埋蔵文化財発掘調査報告書第 30 集

千葉県袖ヶ浦市 中六遺跡 (22)

—蔵波地区宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書—

発行 袖ヶ浦市教育委員会
千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1 番地 1
電話 0438-62-2111
印刷 ワタナベメディアプロダクツ株式会社
千葉県木更津市潮見 4 丁目 14 番 4 号
電話 0438-36-5361